



越後國大原に在る余の愛す

るキリストに在る兄弟姉妹諸君、

余は君等と會せんとして此地に奉り、

然れども君等の都合上、君等と面

と面をと合せし相會し得ざるを悲む、然れ

ども余は君等の信と妙手と愛し喜むとい

秋に親しく木村君より聞けり、而して之を

聞いて非常に歡べり、余は大原に奉りて

大なる福音に接したり、余は君等の信仰に

就て聞て大に余の信仰の益益れしを喜ぶ、

余は深く君等のために神に感謝す、余は

君等の如き信仰の友人あるを余の知て、幸甚

に之れを溢りて今より東をある家に帰る

べし、而して更に大なる勇氣を振て神の

事業に從ふべし、余は大原に奉りしよし

を非常に歡ぶ

君等、力と力を授け、終まで忍耐よ、

人歎として此世に生かし甲斐ありてキリス

トの福音に接するを得たり、世に幸福あり

余は深く表す。神の御心、
君等の如き信仰の友人あるを知て、
に之れを溢れて今より東へある家に帰る
心し、而して更に大なる勇氣を振て神の
事業に從ふべし。余は大庵に來りしと
と非常の感謝あり。

君等、力を落す勿れ、終まで忍耐よ、
人類として此世に生かし甲斐ありてキリス
トの福音に接するを得たり、世に幸福あ
る所として之に優さるものありんや、我侪
はキリストの永遠の歡喜に入らんとして、
者あり、現世に於てキリストが愛を終りし
如き迫害に遭ふは当然にして、亦我侪の
大なる愛あり、我侪が神に選まれし
者あり、^{あか}澄しせんがたの神は是れ等、
艱難を下し給ふあり、余も亦同じく
艱難あり、^い信と余はキリストの僕にして、
等の兄弟あると知る、我侪は居を借せず、
然し、毎日祈禱と此相交はる、兄弟
姉妹よ、余はキリストに在て深く君等と愛
す、^す願とキリストのたのしみ忠實にして亦自愛
せられよ、アーメン。

明治三十八年四月廿六日
大庵木村は方
内村鑑三